

MBC ラジオ『ここが聞きたい！ドクタートーク』2025.11.1

第 1174 回放送分『整形外科疾患』1 回目

ゲスト：田邊 史ドクター



二見いすず

今月のドクタートークは「整形外科疾患」をテーマにお送りいたします。

お話は、鹿児島県医師会 田邊 史（たなべ ふみと）ドクターです。

田邊さん、よろしくお願いいたします。

田邊史Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

第1週の今日は、何についてお話しいただけますか？

田邊史Dr.

今日は、しばらく様子を見てもいい腰痛と早めの来院を勧める腰痛の違いについてお伝えいたします。

二見いすず

腰痛の中でも、しばらく様子を見てもいい腰痛と、

早めの来院を勧める腰痛とに分かれるんですね。

この見極めはとても気になる方も多いのではないのでしょうか。

ではまず、しばらく様子を見てもいい腰痛について教えてください。

田邊史Dr.

はい。まずその前に、腰の仕組みについてご説明します。

椎間板という言葉は多くのみなさんがご存知だと思います。

椎間板は背骨の骨と骨の間にあり、ゼリー状でクッションの役割をしています。

この椎間板があるおかげで、人間の背骨はしなやかに動きますし、体にかかる衝撃をやわらげてくれます。

二見いすず

とても大切な役割をしているんですね。

田邊史Dr.

ところが動きを何十万回と繰り返していくうちに、椎間板は傷んで、すり減ったりしていきます。すると、後ろの関節もかみ合わせが悪くなり変形していき、腰痛を引き起こすのです。年齢を重ねることによっても、椎間板のゼリー状がパサパサになっていきます。「腰だけが痛い」という状態なら、1－2週は様子を見て良いです。しかし、それ以上の腰痛は別の原因があるかもしれないので来院していただきたいです。

二見いすず

分かりました。それでは次に、早めの来院を勧める腰痛について教えてください。

田邊史Dr.

腰だけではなく、ベルトの位置から下に痛みやしびれがくる場合です。神経は脚につながっています。腰痛だけではなくて、神経がつながっているところ、脚やおしりに痛みやしびれがくる場合は、来院していただきたいです。

二見いすず

痛みが腰だけなのか、それとも腰より下の脚やおしりまで痛みやしびれがあるのか。それが来院するかどうかの見極めラインということですね。とても分かりやすいです。

田邊史Dr.

腰から下の痛みや痺れをきたす代表的疾患は2つあります。1つが椎間板ヘルニアで、もう1つが腰部脊柱管狭窄症です。椎間板ヘルニアと腰部脊柱管狭窄症については、来週以降お伝えしていきます。

二見いすず

よく分かりました。今月は、「整形外科疾患」をテーマにお送りいたします。お話は、鹿児島県医師会 田邊 史ドクターでした。田邊さん、ありがとうございました。

田邊史Dr.

ありがとうございました。